

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	色紙に「ゆったりいきいきと自分らしい生活を」と書いてリビングに飾り、それらの理念が実現できるように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が、ホームの理念を共有できるよう朝の申し送り時にそれらを復唱している。また、理念に基づいて個別的ケアが行えるよう日々取り組みをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪時に目に付きやすい玄関や、ホーム内にも掲示している。ご入居時やボランティア等の受け入れ時にも、担当者より理念についての説明をし、理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節ごとのご挨拶回りを通じて地域のお宅に訪問しており、少しずつではあるが地域との輪を広げている。また、隣の製作所の方がボランティアで庭のバラの手入れをしてくださっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平石北小学校の運動会への参加や、近隣の中学生の職場体験学習などを通じて交流を深めている。近くにある平石地区市民センターでのコンサートへも出かけて地元の方々と音楽鑑賞を楽しんでいる。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中で、地域包括支援センターから地域福祉の現状を伺い、互いに協力し合える事はないか検討している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や重要性について全ての職員が理解しており、前回の評価をふまえた上で、改善すべき点を話し合い、具体化している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議をホーム内で開催。ホームのご利用状況や生活状況等を報告し、また、意見を求めてサービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居相談時の困難事案解決方法などを宇都宮市保健福祉部高齢福祉課担当窓口に見学、アドバイスをいただく等個人情報に配慮した上で連携を図っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>各研修会の中で、地域権利擁護事業や成年後見制度について説明があった時には、ホーム会議並びにカンファレンス等にて全てのスタッフに伝達している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法を配布している。今後研修会などにも参加したいと考えている。グループホーム内では、玄関の鍵を日中は施錠せず、日頃から言葉遣いやケアの中でもご利用者の尊厳が保てるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書とともに重要事項説明書をご説明し、同意書に捺印をいただく。同意書は二通作成し、ご家族とグループホームで一通ずつ保管している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者お一人お一人に担当スタッフ制にしており、信頼関係を築いた上で何でも話せる環境作りを目指している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に担当スタッフから近況報告をするのが基本ではあるが、不在の場合でも他のスタッフより伝達ができるよう申し送りをしている。また、一ヶ月に一度ご家族に近況報告・行事案内を記載した手書きのお便りをお渡しし対応している。職員異動については、ユニットリーダー等がご家族へお伝えし、紹介している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族との話し合いを大切にしており、ホーム内には苦情処理委員会を設けている。ご家族の苦情や要望等を運営に反映させるために公的な苦情処理機関についてご入居時にご説明し、ホーム内の見やすい場所に掲示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議や、朝の申し送り時等で、随時意見や提案を聞くことが出来るよう話し合いをしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間の入浴希望が多かったため、日勤と夜勤の二交替から日勤・遅番・夜勤の三交替の勤務体制に変更し対応している。また、外出などの予定やご利用者の身体状況に合わせ早番をつけている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新規採用時には経験年数により異なるが、2日間程度の実習を行い、ご利用者のご意見を伺いながら採用等調整している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症に関する研修会や高齢者全般に共通する外部研修会へ管理者以外のスタッフも参加し、ホーム会議時に伝達研修を行っている。また、シルバーホームと合同で入職年数により段階的に研修会を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域では、平石地区防災福祉ネットワークを通じ各施設間の協定を結んでおり、特に相互間の防災訓練において、夜間を含め互いに参加・協力し体制を整備している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>シルバーホームとの合同研修会でカウンセリング伝達研修等を受け、自分を振り返る良い機会となっている。また、併設病院の看護部長や併設施設の職員よりスーパーバイザーとしてアドバイスをいただいている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各スタッフの特性を活かした細かな役割分担を設定し、個人の能力が発揮しやすい環境を整えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と面会する機会を何度か設け、本人が不安なこと困っていることを伺うようにしている。来所された際には、おやつを食べたりアクティビティに参加したり、他のご利用者と談笑する機会を設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族との面接時には、ゆったりとした空間であるリビングや掘りごたつの場所にてお話しを伺う。普段の生活状況をさりげなく伝えることで家庭的な雰囲気であることを実感していただき、不安等が軽減できるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状況により、グループホームより他のサービスを必要とする時には、担当のケアマネジャーの方や併設施設の相談員に相談し、総合的に対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には何度かグループホームへ足を運んでいただき、他のご利用者との交流を図っていただいている。また、短期入所のご利用も可能であるので徐々に馴染めるよう相談・支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や畑作業、裁縫などを教えてもらったりして共に支え合う関係を築いている。特に季節ごとの行事料理では、作り方を伝授いただきながら共に料理し、おいしくいただくことで関係を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された際、必ず最近のご様子を報告し、ご意見の交換をしながらケアの方針を確認している。また、病院受診を依頼したりすることで病状についても把握していただけるようご協力をいただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の両方からお話を伺い、ご本人がご家族の協力のもとホームで穏やかに生活できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚の方や古くからの友人方も面会に来られ、リビングで談笑されている。また、ドライブなどの外出時に昔住んでいた場所など馴染みのある場所に行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行事やアクティビティへの参加や、日々の生活場面を通して、利用者同士がコミュニケーションを図れるよう声かけや見守りをし、支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や退居された時は、ご家族の了解を得た上で病院や施設にご利用者と共に会いに行き、楽しい時間を過ごしている。また、退居されたご家族が季節の野菜を届けてくれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のホームでの生活に対する希望や要望は、その都度伺い把握している。担当スタッフが中心となり、情報を共有した上でケアプランにつなげて支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族からこれまでの生活環境等、詳しい聞き取りを行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝検温等を確認し健康状態を把握している。また、1日の日課を定めずご利用者の生活習慣を知りえた上で、ご利用者のペースで暮らせるよう支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご利用者にはその都度、ご家族には面会時等にご意見を伺っている。スタッフはそれぞれ意見を出し合い介護計画を作成し、内容はご家族に説明し、承諾を得ている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じた評価見直しや、状態の変化に対応したケアを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、職員間で話し合い、ご家族にも現状を説明した上で新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のホームでの様子や介護計画に沿ったケアの提供・対応の仕方などを個人の介護記録用紙(フォーカスチャージング様式)にわかりやすく記入し職員同士で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院では、定期受診を通して医師・看護師・事務スタッフがご利用者状況を共有してくれている。ご家族へは必要に応じて法人内の介護サービスの情報を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市町村からの見学の受け入れは積極的に行っている。地元の中学生在が職場体験実習し、ご利用者のご要望に合わせて活動している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設施設のシルバーホームの支援相談員やPT・OTに助言をいただいている。また、必要に応じ入居前に担当していたケアマネジャーの方よりお話を伺っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまで地域包括支援センターと協働でケア検討をする事案がなく、活動実績はない。	○	ご利用者の意向に応じて権利擁護等の相談を協議していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用し、盛り付けにも工夫している。ホームの菜園でご利用者と共に収穫した野菜を使っのメニューは好評である。食事を一緒に摂ることで好みを把握したり、食を話題にして楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日には、ご利用者個人の希望を伺い、好きなメニューを提供している。また、外食の機会を設けて嗜好にあわせた食事を召し上がっていただいている。飲み物は常時数種類用意し、その都度選んでいただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、各個人の排泄パターンの把握に努め、誘導介助・声かけ・見守りを行っている。オムツご利用の方は、尿量に応じてパット・オムツの使い分けをし、必要に応じてパット・オムツの再検討を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の生活リズムに合わせ、タイミングを見計らいながら入浴の声かけを行っている。午前・午後・夜間に分けて希望された時間に入浴していただけるよう遅番勤務の配置など工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者個々人の生活リズム、日々の様子を把握しゆったりと安眠していただけるようアプローチを行っている。精神的ストレスや身体的にもお変わりがないか日々状態の観察・把握を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の性格・生活習慣を見出し、負担にならないよう考慮して、その方に担当していただけたような役割を取り入れている。ご利用者同士で役割を分担しあいながら調整することも見受けられる。ご本人の趣味に合わせた気分転換目的の外出支援も行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の金銭管理は自己にて所持する事で安心される方や、逆に所持している事で不安やストレスとなる方もいるので、ご家族とも充分相談し、個々にあったアプローチをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材買い出しに近くのスーパーへ出掛けたり、その方のご要望に合わせ靴を買いにスーパーへ出掛ける等個別外出している。天気の良い日には菜園や庭の散歩をし、野菜の生育等を観察している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その季節に合わせた景色の良い場所へ外出している。 昨年出掛けた紅葉狩り等ご要望に応じ、個人あるいは少人数にて出掛けている。馴染みの理髪店等へはご家族の協力で外出している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用してご家族等と連絡を取り合ったり携帯電話にご家族から連絡が入る等日常的に利用していた方がいたため、今後も希望があれば取り入れていく。ご家族や友人へのお便りの宛名書きの代筆や投函の代行をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・ご友人がいつでもいになっても暖かな応対で迎え入れ、居室・リビング等でくつろいで談話できるようお茶をお出しし、近況等の話題提供しながら居心地良い時間が過ごせるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より玄関の施錠は行わず、また身体拘束防止についての研修会に参加しホーム会議で研修会の学びや気付きの報告をし、身体拘束をしないケアを話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者の抱えているリスクをご家族と共有できるように日々の様子をご報告している。必要がある場合にはかかりつけ医から説明していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日検温・血圧チェックを行い、異変があれば職員間で申し送りをして、迅速に受診ができるよう情報を共有している。 毎月体重測定を行い、増減時は定期受診時かかりつけ医と相談し、記録に残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い服薬介助しており、服薬状況を記録している。残薬を確認しながら自己管理できそうな方への支援も行っている。かかりつけ薬局にての個別分包や服薬の情報提供を受け、スタッフ間で介助方法を統一している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	さつまいも等、食物繊維の多い食材を利用したメニューを提供している。便秘傾向の方には牛乳や乳酸飲料を摂っていただいたり、体操や散歩の声かけをし、体を動かすよう促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後・就寝時にはうがい・歯磨きを行っていただくようそれぞれの力量に合わせ声かけ・支援を行っている。 うがいでは、うがい薬を使用し、のどの殺菌・消毒・口臭予防を支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、ご利用者と一緒に食事を摂り、摂取状況を把握して記録している。 1日の摂取量は1,500kcalを目安とし、献立は栄養バランスに配慮し、管理栄養士が立案したものを取り入れている。水分摂取ではお茶の時間のほか、入浴後や体操の後等水分補給を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内感染症対策委員会からの情報伝達や、宇都宮市主催の研修会に参加し、スタッフ全員が同一方法で手洗い励行や消毒を行っている。年一回の環境検査を実施し、衛生状況を確認した上で清潔保持に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具・まな板・布巾・台布巾等の台所用品は、使用後キッチン用ハイターやプレVENT水を使用し、殺菌消毒を行っている。また、食材は使いきれの分量を購入し、冷蔵庫は食材購入時ごとに週3回プレVENT水にて消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現在、玄関横は工事中であるが、出入りに支障のないよう安全を確保している。玄関前には草花の鉢物やゆっくり過ごしていただけるようベンチを用意しており、併設病院の患者様や面会の方も立ち寄られている。前庭の菜園も話題に一役かっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは三方向に窓があり明るく、冬は床暖房により暖かい。木目の多い内装や暖色系の家具により、家庭的な雰囲気を大切にしている。また、季節感が味わえるよう、季節に合わせたご利用者方の俳句や趣味の作品を展示し、みんなで鑑賞している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の安定感ある椅子はもちろんのこと、暖かな陽射しが入るリビングのソファや静かで落ち着ける畳スペースの掘りごたつを利用し、一人や少数人数でゆったり座ったり、ごろ寝をしたりくつろげる場をご用意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一日の日課を定めず、ご利用者の生活習慣を知り得た上で、お一人お一人のペースを尊重した「自分らしい生活」を送っていただけるように心がけています。